

本当の幸せ

2022.8.19

ここ数年だろうか。幸せということについて考察するようになったのは。普段何気なく生活していても、幸せに関する文章を目にすることが多い。自ずとこちらも考えるようになる。世の中が幸せについて考えざるを得ない状況になっているということか。それだけ、幸せとは対極にある状況が起きている。

小さな草花は、私たちの身の回りに当たり前のように咲いている。だが、心の中が悩みや妄想、仕事のことでいっぱいになっているときは、目の前にあっても決して目に留まることはないだろう。その美しさ、すばらしさに気づかないでいるのは、実にもったいないように思う。時間をつくって小さな草花などに意識を向けることで目の前の景色が明るく感じられるようになる。

私たちは幸せや喜びというと、外部から何らかの刺激がもたらされることをイメージしがちである。何か特別なことが起こらないと、幸せが自分の身にやってくることはないと思いがちである。宝くじが当たる、入試や就職試験に合格する、海外旅行に行くなどが、その類である。反対に、それらがうまくいかなかったりすると、不幸だ、失敗だと落ち込んでしまう。

真の幸せとは、そういう出来事に支配されないように思う。本当の幸せとは、当たり前のことがいかにすばらしいかに気づくことである。静かに自分の心を落ち着かせて、何気ない自然の情景や出来事に意識を向ければ、そこに何らかの発見があるだろう。

多くの方は、このようなことに気づいているのかもしれない。だが、人は欲深い生き物である。欲というものは大切なものである。その一方で、扱い方を間違えると悲劇をもたらす。それは、人類の歴史が証明している。

中学生でも、すでに本当の幸せに気づいている生徒がいる。それは、コロナの状況がきっかけだったかもしれない。言葉がない給食、顔の半分を覆うマスクなど、当たり前の尊さやありがたさに気づいた中学生も多いことだろう。また、世の中には、東日本大震災や様々な自然災害などを契機に考えた人もたくさんいるだろう。それが、自分の人生に大きな影響を及ぼしている人も多いはずである。

当たり前の日常が、いかに大切なことか。多くの方がこのことに気づき始めている。コロナが収まれば、また元に戻ってしまうのだろうか。人には、喉元過ぎれば熱さを忘れるという傾向がある。だからやっていけるという側面もある。だが、今回の苦難から学んだことは忘れてはいけない。

来週から2学期が始まる。また、慌ただしい生活に戻る。それでも、身の回りの小さな草花に意識を向けられるようにしたい。きっと、その方がいい教育ができそうである。